

画像と症例でみる 内科医のための 「危ないめまい・中枢性めまい」 の見分け方

中山杜人 著

B5判・150頁 定価4,095円(税込)

ISBN978-4-621-08368-0

豊富な画像と症例によって、めまいに潜む
「危ないめまい・中枢性めまい」の
見分け方のコツを提供します。



本書『画像と症例でみる内科医のための「危ないめまい・中枢性めまい」の見分け方』は、開業医、勤務医にかかわらず、一般内科、総合内科（総合診療科）などでプライマリ・ケアに携わる医師を対象に、一見たいしたことのないような、日常診療上よく見かけるめまいの中に潜む「危ないめまい・中枢性めまいを見逃さない」ためのコツを、豊富な画像と症例で提供します。

「危ないめまい」は必ずしも頭蓋内とは限らない。脳循環血液量減少を介しためまい、心疾患に伴うめまい、貧血によるめまいの原因となる消化器疾患、血栓症を生じやすい血液疾患に伴うめまいも危ないめまいとなりうる。本書はこうした疾患についても、症例を中心に記載されており、日々臨床に携わっている先生方にとって、よく見かけるめまいに潜む「危ないめまい・中枢性めまいの見逃し」を防ぐためにお薦めしたい一冊です。

本書のポイント

- 危険因子を抱えた中高年者、65歳以上の高齢者は、画像が必要。
- 高齢者は、背後に潜む脳梗塞、内頸動脈や椎骨動脈の動脈瘤、狭窄、閉塞に注意。
- 「めまいの9割は末梢（内耳）性、耳鼻科疾患」、「回転性めまいの8～9割は末梢（内耳）性」という思い込みは、重大疾患の見落としに繋がる。
- CTやMRの画像で脳に異常なければ、末梢（内耳）性めまい、耳鼻科疾患という思考プロセスは誤り。MRAで血管病変を見ておくこともお忘れなく。
- 耳鳴、難聴を伴わず、定方向性眼振があれば、前庭神経炎？——答えは否である。

目次

- 第0章：「めまい診療」へのウォーミングアップ
 - 第1章：内科からみた末梢（内耳）性めまい、危ないめまい、中枢性めまい
 - 第2章：危ないめまい、中枢性めまいを見逃さないコツ
 - 第3章：危ない中枢性めまい — 頭蓋内とその周辺疾患を見逃さないために —
 - 第4章：中枢性めまい（1） — 中枢性めまいの症状と臨床例 —
 - 第5章：中枢性めまい（2） — 主に中枢性発作性頭位眩暈（狭義）について —
 - 第6章：危ないめまいは頭蓋内とは限らない
- 索引

丸善出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 神田神保町ビル6階 営業部 TEL(03)3512-3256 FAX(03)3512-3270
<http://pub.maruzen.co.jp/>

丸善出版：発行 FAX 03-3512-3270

注
文
書

画像と症例でみる
内科医のための「危ないめまい・中枢性めまい」の見分け方
定価4,095円(税込) コード108368

冊

お名前
ご住所 〒

TEL — —

取扱店

※ご注文をいただいた個人情報は、書店、取次（流通）・弊社間での商品手配の目的に利用させていただきます。